

省力化とコスト削減を両立させる既製品の使い方

(株)トーヨー建設

BX カネシン(株)



建設中の「(仮称) 特別養護老人ホームフォレスト浦和・フォレスト浦和保育園」

2016年度の国内の非住宅木造市場規模は面積ベースで423万8,000m²(前年度比6.5%増)、建築着工ベースにおける床面積は「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律(木促法)」が施行された2010年度以降は、2014年度の消費増税による反動減を除き、これまで右肩上がりに推移している。また、建築着工ベースにおける工事費予定額についても、近年の職人不足による労務費高騰や大断面集成材、耐火構造部材の建築物への適用増などから平米単価の上昇が要因となり、こちらも2010年度以降は右肩上がりに推移している。

こうした非住宅分野における中大規模木造建築物の需要の高まりを受け、新たな建材や接合金物、それらを効果的に用いる工法が急速に進化してきた。木造住宅用の接合金物の製造・販売を手がけるBXカネシ

ン(株)(東京都葛飾区、二村一久社長)では、既存の一般住宅用梁受け金物「プレセッターSU」を2種類組み合わせることにより、コストを抑えつつ、梁せい390mm以上の中大規模木造への対応を実現。保育施設や老人ホームなどの施設建築における実績を増やしつつある。同社は現在、木造非住宅で多くの実績を持つ(株)トーヨー建設(東京都葛飾区、岡田吉充社長)と共に、さいたま市浦和区において特別養護老人ホームと保育園を組み合わせた木造施設の建設を進めている。

関東最大規模となる木造の特養老人ホーム

7月26日の見学会で公開されたのは、「(仮称) 特別養護老人ホームフォレスト浦和・フォレスト浦和保育園新築工事」の建設現場。事業主は社会福祉法人フ